



## 巻頭言

神戸松蔭女子学院大学教授

勝村 弘也

古代エジプトの格言に「怠慢な者には、昨日がない」とある。ここで言う「昨日」とは「過去」の意味である。ロバに載せた商品を不正なやり方で奪われたある男が、事件への適切な処

## 第41次(7/20-23)報告

吉川 潤

生活再建は進んでいない。地盤沈下は深刻。倒壊家屋の現状に参加者は凍り付く。

インドからジョン・デバラジ氏(59歳)が同行。10名を本田寿久事務局長がJR朝霧駅から見送る。片言の英語で行きの道中から笑い声が絶えない。インド人は明るい。国ではストリート・チルドレン、それもタリットという最下層の子どもたちと生活を共にしている。差別のため生涯路上生活者。そんな子どもたちに音楽、絵画、彫刻に親しんで、生き抜く技術を教えている。国連をはじめ世界各国から講演に招かれる。

石巻では、万石浦幼稚園の園児、女川の仮設住宅集会所、西光寺でギターとハーモニカを奏でながら、日本語で自分の作詞作曲した歌を披露。

ユーモアを交えながらも、インドの実態を語る言葉に聴衆は老若男女を問わず、釘付けになる。外で鳴くセミ、キリギリスの声も耳に入らなくなる。一行にプロジェクト、スクリーンがないとわかったと亀山絃市長は迅速に配慮してくださった。他府県からのボランティアの小さな働きをも気にかける。被災地の復興をだれよりも願っておられる気持ちに私たちが励まされる。渡波地区復興協議会吉野雄一会長や、阿部捷一支所長、中村熊夫女川仮設住宅自治会長もあいさつする。



倒壊家屋 湊町 2014年7月21日

理を求めて役人に訴えるのだが、役人は何もしてくれないという文脈にこの格言が出てくる。過去の重大事件に対する役人の不作為を非難しているのである。東北の大地震・津波から3年数か月を経過した。この間に行政が何もしなかったとは言えないだろうが、「昨日」のことを忘れたがついている役人や政治家がいるのは、昔も今も同じである。腹が立つ!

インドの働く子どもは1億3400万人。ちよと日本の総人口に近い。貧富の差が激しいインドで働く中心は子ども。3Kの仕事は子どもが従事する。鉱山で労働し、鉄鉱石、マンガン鉱などを掘る。野菜、果物、塩などの食物、絹、布、革などの衣類のために働く。日本をはじめ先進



石巻市渡波駅前 中央 遠藤 司さん

国の身の回りにおける便利な携帯電話、パソコン、食器はインドの子どもの汗、涙、涙の結晶であること知られる。デバラジ氏はアルコール依存症の親からの暴力、極度の貧困、「触れると穢れる」と忌み嫌われているタリットの子どもを集めて無料の学校を開く。

東北ボランティアに神戸から出発する前日に来日日本にはデバラジ氏を応援する人が少なくない。来日実現に骨折ったカメラマン中山尚幸氏(『死』を考える)講座撮影記録や、ピアノの池邊幸恵氏なども同行。

デバラジ氏は菅野増徳班長たちと植樹、沿道の管理に専念。池邊氏は傾聴ボランティア、他に田植えした稲の生育、雑草刈りに大学生林美輝さん、高校生森本拳士朗さんも奮闘。2名は兵庫県青少年本部の認定制度にも登録。機構の田には地元の遠藤司さんも加勢し、神戸からのみんなを励ました。東北と言えども、昼間は30度以上の気温になり、木陰もない炎天下の作業である。

初日の就寝前、宿舎でひとりひとりが東北にきた動機、感想を話した。「引きこもりで人前で話せなかった」と村上裕隆リーダー(24歳)が語ると、みんな

は拍手。ひとつの家族になっている。仲間だから、自分の弱点をもさらけ出しても平気である。今回、3人のボイスカウト出身者がいた。北村洋一さんは幼い時の野外における体験の大切さが社会に出てから貴重と言う。学校、家庭では学べないロープ結索法、手旗炊事などが思いがけない時に役立つ。ナイフで手を切ったりしながら、痛みがわかると人を平気で殺したりしない。失敗の体験をできるだけ早い時期に修得するように述べる。

色々なボランティアを定年後も続けておられる三木浩さんは帰宅後、メールを寄せた。

「このたびはお世話になりました。お陰様でとても貴重な体験をさせて頂き感謝しています。わずか4日間でしたが10名が行動を共にしますと残念ながら人間の性も露呈してしまします。改めて自らも戒める機会とさせて頂きます。40回以上このようなボランティア活動を実施されている事に対して岩村先生には心より深く敬服致します。今回被災者住宅を訪問、狭い傾斜した床での生活のご苦労を知りました。また22日、草刈りの合間、みよこさんの昼食後のデザートに仮設住宅の斉藤さんからフルーツゼリーを頂きました。被災された方からの心温まる思いやりの歓待に、日が経つにつれ、心の中に有り添いの気持ちが膨らんできました。一市民として寄り添い、想いを共有し支える意味も含めて自治会宛てに礼状を出したいのですがご存じなら住所を知らせていただけないでしょうか?迷惑でなければぜひともよろしくお願い致します。最後になりましたが今日午後開かれます大阪大学でのデバラジさんの講演が盛況でありますよう心から祈っています。」と縁ができた参加者はおひとりひとりがつながりを持ちつづける。今回は直前であるにもかかわらず、石巻のビッグイベントであるサンファン祭の出演に術後であるにもかかわらず東奔西走してくださった佐藤金一郎氏ご夫妻にも感謝したい。

来年以降、毎年インドから石巻に行きたいとデバラジ氏たちは心に決めた。



修空館で





周囲には色々な食草もあります。スベリヒユもゆでておひたしにします。農薬の使用されていない場所なら生育します。



里山に住む人たちはあいさつしましうね。

です。  
送り迎えします。飲料、タオル、長靴、帽子はご自分で用意してください。  
鋤、鎌などは機構の備品があります。  
ご自分の車で行かれた方は駐車スペースはじゅうぶんあります。  
わたしたちの畑で生きましよう。うぐいすの鳴き声、小川には魚タモロコが素早く泳いでいます。生きた化石カブトエジモいます。(下画像)



## 「耕」支縁

楠元 翔子

● 自産自消  
自分たちで土を耕します  
毎週、火曜日にJR朝霧駅前に集合!!  
時間は機構に聞こう。携帯070-504517127  
(石巻訪問の第3火曜日を除く)  
里山の自然の空間はやすらぎをもたらします。清水が流れています。シオカラトンボが目の前を行き交います。キリギリスもギース・チョン…。ほおじろがリッチョチュリツ、リッチョチュリツ、リッチョピ、リッチョピ、ウグイスがホーホケキョ、ホーホケキョ、ケキョケキョケキョ…。  
耕支縁で作業をし、汗を流す快感。お弁当があれば最高



楠元翔子さん(右側)

女性パワーが耕支縁の特徴です。  
左 溝口智子さん(第40次) 右 櫻井由里子さん(第39次)



生活は決して安定していない  
だが、生きがいが土にあるから  
君にも、だれにでもできる  
あなたは何を植えたのですか。なす? それとも枝豆?  
もちろん無農薬、有機です。低農薬ではありませぬよ。ここでも保田ぼかし(無農薬、有機による乳酸菌こやし)による農法です。  
あなたも自分の植えた種、苗で育った作物を持つて帰り、食卓で召し上がってください。安全な野菜ですから、水で洗わなくても、すぐに口に入れて味わえます。



はせたに  
檀神社の東側です。  
65号線の友清交差点を  
東に向かいます。

耕支縁でできたタマネギや新鮮な野菜を毎週、東遊園地で「路上で生活をしている人」に召し上がっていただきます。  
5月に初めて耕支縁に参加し限られた日ではありますが携わらせていただいております。

母は私が幼少期の頃から、自然災害が起こると、人手が必要であれば可能な限り伴いました。阪神・淡路大震災から数ヶ月経った頃、私たち兄弟は母に連れられ街へ。まだ生々しく残る崩れ落ちた建物、道路のひび、傾いた信号機、幼稚園児だった私にも衝撃的な光景を前に母は、「この光景を忘れない様に」と一言言ったのを鮮明に覚えています。思い返せば私は両親から自分の目で見る、感じるといった「感性」を大切にすることを様々な状況で教えられた気がします。

あるご夫婦が、どうして路上で生活し始めたか、路上生活をしている中でどんなことが起るか日常の体験をたくさんお話してくださいました。故意ではなかったのですが、私はお二人より一つ上の階段に腰をかけ、耳を傾けていたのです。後になってすぐ後悔しました。人の言葉を聴くことに対しあまりにも配慮に欠けていたのです。その日の帰り道、はじめての人には気遣いを示して向き合ってみようと思えました。一度二度では相手の生きてこられたことについて何もわからないものです。回を重ねるにつれて、新しい発見、思いやり、感情移入できる自分を磨けるから貴重な機会だと信じます。学校時代、職場、海外でも、性別、年齢、環境、国を超えて、様々な人との出会いは刺激になりました。自分でも驚くくらい感動、興奮、かけがえのないモチベーションを高めました。そして顧みる時間を作れます。

耕支縁を通じて、私は私自身のこれからに期待をし、いろんな人と出会い、寄り添い、共に生きていけたらと願っています。ありがとうございます。



TAMANOHADA

代表取締役 三木 晴雄

〒130-0021 東京都墨田区緑3-8-12  
tel 03 3634 1345 fax 03 3635 4124  
URL: www.tamanohada.co.jp

株式会社 チュチュアンナ  
代表取締役社長

上田 利昭

tutu.anna™

MIYOSHI

ミヨシ石鹸株式会社

〒130-0021  
東京都墨田区緑3-8-12  
TEL 03-3634-1341



竹中工務店

www.takenaka.co.jp



Humanity First

「ヒューマンティ・ファスト」  
日本アハマディア・ムスリム協会







平成26年(2014年)7月20日(曜)日

石巻市  
被災民対策(8・9月)開催

自力再建の意向は  
仮設集約化方針に反映

頑張ろう石巻  
9月7日(日)開催

## 2014年7月 石巻の現状

旧門脇小学校舎を遺構保存  
住民配慮求める声も

「石巻日日新聞」  
(2014年7月25日付)

「石巻かほく」(2014年7月20日付) 仮設住宅6189世帯

早朝に響くサイレン

津波注意報発表 鮎川で20センチ観測

「石巻日日新聞」  
(2014年7月12日付)

震災から3年余  
自殺者増加に危機感

「石巻日日新聞」  
(2014年7月2日付)

## ニュース博物館

「石巻ニューズ」案内

門脇小、石巻小などは震災遺構にするべきか、解体するべきかについて、結論が出ていなかったり、震災で亡くなった人は発表されても、去年暮れから今年にかけて多い震災関連死については、表向きには発表されない現状等、震災が残した傷跡は深く、問題もたくさん残っています。

3.11の時、石巻日日新聞の7人は、手書きで壁新聞を発行。情報が錯綜する中で昼夜分かつたず、自分の家が押しつぶされていても、記者として報道の使命を全うしました。社では、「パニックにならないように、正確な情報で行動してください」と促されました。

12日は、門脇小学校が全焼したこと、市役所

7階の壁が落ちたことを掲載、またM8.8という情報は翌朝、M9.0になったため、ばつてんをつけて書き直しました。13日は東北地方太平洋地震から東北関東大震災に名称が変わったことを掲載。

読者からの声を受け、避難所と人数を記載した避難所状況調べの紙も一緒に貼るようになりました。平日の午後の時間帯に地震、津波の発生ですから、家族がバラバラになっているだけに家族の行方を捜す方たちの要望が強かったのです。

記者は町に出て取材を続け、14日は、女川と東松島の情報を記載。15日には、ボランティアセンターができたこと、石巻のラジオ局が避難所のリストを公開していること、商店街も被害が大きかったが、皆で持ち寄って炊き出しが始まったことを記事にしました。避難生活が長くなってきたため「助け合ってがんばりましょう」と



ニュース博物館  
「石巻ニューズ」武内宏之館長の説明

## 連載「むかし、むかし」(その二)

津波の記憶 阿部 捷一

昔々、もともと昔、東北の石巻、牧山から続く山並みのふもとに、波が打ち寄せていた。山の際に村が出来、そこを根岸と呼んでいた。北上川が運んでくる堆積物が河口の両側に砂浜を作ったというものであり、万石浦の入り口も、この砂で埋め尽くされ、波打際を、風が吹きたつていた。この地を波が渡る様子から、誰いうとなく、渡波というようになった。また一説には、アイヌ語のワッターという呼びかたから来ているとも言われている。その後、この地に入ってきた人々が入り、浜を開墾し、住みつくようになった。古文書によれば、根岸字瑞郷、渡波となっている。

渡波の地名からすると、2011年3月11日の津波の襲来は、それほど不思議ではないのかも知れない。私たちが子どもの頃に見た渡波全体の松林は町の発展で多くが失われた。渡波の長浜にしか残っていない。波打際の緑深き松林が懐かしく、思い出される。

いう励ましの言葉を入れました。日が経つにつれて、伝えたい情報が多くなり、字も小さくなっていたといひます。

17日は日和山に発電車が来て電気が付いた、希望が見えてきた、という内容になりました。また心掛けていたことは、なるべく早く情報が伝わるよう、日が出ているうちに貼り出しに行くことでした。手書きで時間も限られた中で、伝えたい情報は全部書けるようにしました。17日以降は、A4判2000部を印刷し、社員が行けるところまで行つて、手で配るという方法を取りました。3月末にはA2判で紙面として再開しました。

「六枚の壁新聞石巻日日新聞―東日本大震災後七日間の記録―」という本にもなっています。

法律相談初回無料。  
お気軽にご相談下さい。

宮永法律事務所

みやながたかし 弁護士 宮永 亮史  
まつたやすお 弁護士 松田 康生

〒650-0016 神戸市中央区橋通1-2-14

☎0120-997-181

TEL 078-351-1325 FAX 078-351-1270

KINSAN

夢に近づく  
夢を産み出す...

近畿産業信用組合

総合コールセンター

0120-111-019

特定非営利活動法人

みもぞ

TEL 078-262-0460

医療・保健介護・  
福祉・教育に関する事業  
共生社会の実現

不動産 売買・賃貸・管理・店舗は

本田商会

〒662-0051 西宮市羽衣町5-23

電話：0798-38-7560

FAX：0798-38-7561

お気軽にご相談ください。



ヤマザキ

世界のパン  
ヤマザキ



岸本豊氏が西区友清の野菜を提供。西福寺(豊原正尚副住職)から玄米30kgが「耕」支縁(炊き出し)に提供。藤丸秀浄住職めんつゆ。